

資産運用の読み物

経済・投資のあんちよこ



VOL.24

積立預金と積立投資、あなたはどっち派？

今回の話題

お金を育てる第一歩として始めたいのが、毎月一定額を積み立てる方法です。積み立てには、預金を利用する積立預金や、投資信託を利用する積立投資という方法があります。さて、あなたなら、どっちを選びますか？

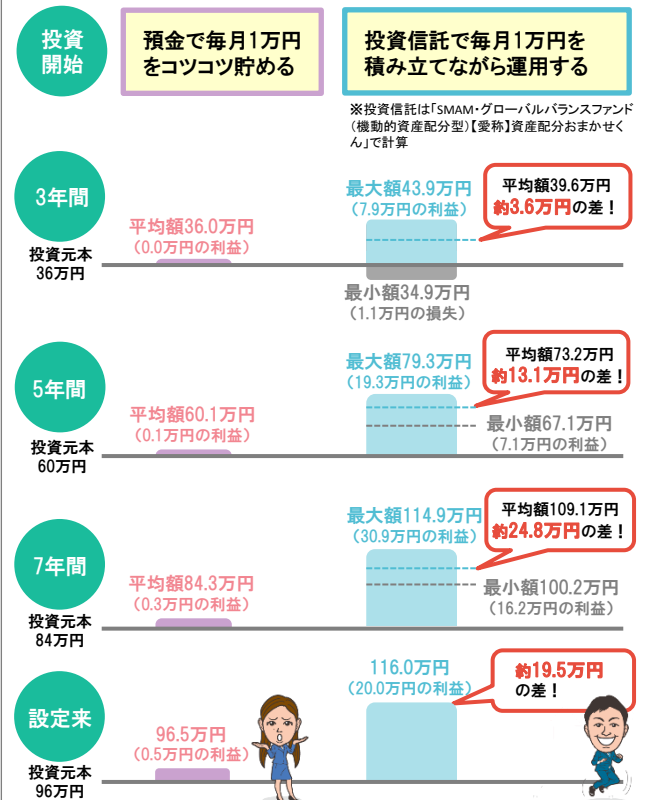
2つの違いは「元本保証」と「値動き」

- 預金と投資信託の大きな違いは元本保証の有無です。預金は原則として元本が保証されていますが、投資信託は元本が保証されていません。
- 2つの違いは、リスクの有無と言うこともできます。ここで言う「リスク」とは、リターンの幅のことです。預金は予めリターンが確定しているため、リスクはありません。一方、投資信託はリスクがある代わりに、預金と比べて大きなリターンを得られる可能性があります。
- 右の図は、毎月1万円を預金で積み立てた場合と、投資信託「SMAM・グローバルバランスファンド(機動的資産配分型)【愛称】資産配分おまかせくん」で積み立てた場合のシミュレーションです。預金はいずれの期間でも投資元本を下回りませんが、投資信託は損失が出ている期間も利益を出している期間もあることが分かります。あなたにはどちらが合っていますか？

Point

預金も投資信託も、積み立ては資産形成の第一歩。投資信託はリスクとリターンに注目です。

■積立預金と積立投資の比較



※毎月末に1万円を積み立てた場合。千円未満切り捨て。投資信託は「SMAM・グローバルバランスファンド(機動的資産配分型)【愛称】資産配分おまかせくん」で計算。
 (注1) データは2008年3月31日(設定日)～2016年2月29日
 (注2) 左預金のグラフ(3年間・5年間・7年間)は同期間の各月末における直近3年間・5年間又は7年間に積み立てた元金と利息の合計額の平均を表示したものです。右投資信託のグラフ(3年間・5年間・7年間)は同期間の各月末における直近3年間・5年間又は7年間に積み立てた投資元本の評価額の平均・最大・最小を表示したもので、同じ積立投資期間であってもその時期によって投資成果が異なることを示しています。また、千円未満の数値を切り捨てで表示しているため、積立預金と積立投資の差額が表示額の差額と一致しないことがあります。
 (注3) 本シミュレーションは、税引前分配金再投資基準価額(1万円当たり、信託報酬控除後)を使用して計算しています。
 (注4) 税引前分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算しており、実際の基準価額とは異なります。
 (注5) 預金金利は日本銀行が公表している定期預金の預入金額300万円未満、預入期間1年の平均年利率を使用。満期以降の金利も当初の金利を使用。
 ※上記は一定の前提条件に基づき、過去のデータを用いてシミュレーションを行ったものであり、実際の投資成果ではありません。
 また、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
※投資信託は元本が保証された商品ではなく、解約金額や償還金額が積立投資元本を割り込むことがあります。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。